
短 報

入院高齢者のせん妄予防ケア（HELP in SL）の 実習前教育の導入と動画教材開発

川上 千春¹⁾ 亀井 智子¹⁾ 金盛 琢也¹⁾ 目黒 斉実¹⁾
桑原 良子¹⁾ 内山真木子²⁾ 滝口 美重²⁾ 石原 幸子²⁾

Development and Implementation of the Hospital Elder Life Program in St. Luke's (HELP in SL) to Promote Nursing Practice Education and Video Teaching Materials

Chiharu KAWAKAMI¹⁾ Tomoko KAMEI¹⁾ Takuya KANAMORI¹⁾ Satomi MEGURO¹⁾
Yoshiko KUWABARA¹⁾ Makiko UCHIYAMA²⁾ Mie TAKIGUCHI²⁾ Sachiko ISHIHARA²⁾

〔Abstract〕

The Faculty of Gerontological Nursing, St. Luke's International University, in collaboration with the Department of Nursing, St. Luke's International Hospital, has created video training materials related to the Hospital Elder Life Program in St. Luke's (HELP in SL). These materials center on improving preventive nursing care for delirium in hospitalized older adults, and are delivered as part of an undergraduate education program before clinical practicum. The new materials were effective in helping both nursing student volunteers and nurses at the ward acquire knowledge of delirium prevention. Furthermore, the overall activities of HELP in SL were helpful not only for hospitalized older adults, but also, from an educational viewpoint, for nursing student volunteers and nurses at the ward. It also led to a qualitative improvement in care. The results suggest that HELP in SL is an effective gerontological nursing education program that could be distributed as a new teaching method.

〔Key words〕 Hospital Elder Life Program(HELP), prevention of delirium, active learning, nursing education

〔要 旨〕

聖路加国際大学老年看護学研究室は聖路加国際病院看護部との協働により、入院高齢者へのせん妄予防ケアである HELP in SL の動画教材を作成し、HELP in SL を活用した臨地実習前の学部教育プログラムの開発を行った。その結果、作成した動画教材は看護学生ボランティアのみならず、病棟看護師にとってもせん妄予防に関する知識習得のために有効な教材となり得ると考えられた。さらに HELP in SL の活動は、入院高齢患者に対して有益であるばかりでなく、看護学生ボランティアや病棟スタッフに対しても教育的視点とケアの質的向上に有益であることが示された。HELP in SL はアクティブラーニングによる実践的老年看護学教育を実現しており、新たな教授法として展開できることが示唆された。

〔キーワードズ〕 Hospital Elder Life Program (HELP), せん妄予防, アクティブラーニング, 看護教育

1) 聖路加国際大学大学院看護学研究科・St. Luke's International University, Graduate School of Nursing Science
2) 聖路加国際病院看護部・St. Luke's International Hospital, Department of Nursing

I. はじめに

少子高齢化の著しいわが国では看護学教育の転換期といわれ、超高齢社会に適した理論と実践を統合した老年看護教育の推進が不可欠である。特に認知症ケアや入院高齢者のせん妄予防に関する教育内容の充実が喫緊の課題である。

入院高齢者のせん妄を予防し、認知機能、および身体機能を維持することを目的として開発された Hospital Elder Life Program（以下、HELP）は、1997年に Inouye ら¹⁾が開発し、現在全世界で200以上の医療機関に導入され、入院高齢者に対するせん妄予防等の有効性が報告されている^{2)～5)}。聖路加国際大学（以下、本学）では、米国ハーバード大学にある HELP 統括本部より承認を受け、老年看護学研究室と聖路加国際病院看護部との協働により、聖路加国際病院入院高齢者を対象としたせん妄予防プログラム Hospital Elder Life Program in St. Luke's（以下、HELP in SL）を2015年9月より継続的に実施している。この HELP in SL では、聖路加国際病院に3日以上入院している70歳以上の患者を対象として、本学看護学生ボランティアがベッドサイドを訪問し、1回20～30分程度のせん妄予防ケアとしてのアクティビティの提供と入院生活の支援を行っている。参加した看護学生ボランティアは、HELP in SL を通じて入院高齢者に快適な時間を提供しているが、それだけではなく、高齢者とのベッドサイドでの相互のコミュニケーションから「患者さんの知識の多さに驚いた」、「一方向の関わりではなく、患者さんがこちらをもてなそうとしていることを強く感じた」といった従来の授業や実習では体験し得ない経験を得ていることを筆者らは報告^{6) 7) 8)}してきた。学部3年生を対象とした老年看護学実習では高齢者とコミュニケーションをとることに難しさを感じる看護学生も散見される中、HELP in SL では、看護学生自身の持っているコミュニケーションスキルを活用し、高齢者と病室で向き合い、コミュニケーションの成功体験を重ねることで、学生自身に自己肯定感をもたらすものとなっている。そのため、HELP in SL を全学生を対象とした、臨地実習前的高齢者とのコミュニケーションやせん妄予防ケアのための学習として位置づけ、すべての学生が参加できる方法を検討する必要があると考えた。

せん妄予防ケアのアクティブラーニングとしての HELP in SL が、高齢者とのコミュニケーションスキルを磨く実習前教育としての有用性が示唆される一方で、現在のところ HELP in SL を実施するための十分な事前学習教材がないため、現在は老年看護学の教員が作成した HELP in SL 紹介冊子を用いたオリエンテーションを行うにとどまり、事前教育方法として十分であるとは言えない。

また、老年看護学研究室では聖路加国際病院看護部の

認知症ケア検討会と協働し、認知症ケア、高齢者のせん妄予防ケアの学習や講義、事例検討を行っている。しかし、せん妄予防ケアに関する理論と実践を統合した教材がなく、現場においても教材開発の必要性が叫ばれている。そこで2016年度本学教育改革推進事業の採択を受け、本事業では、入院高齢者のせん妄予防ケアに関する動画教材を聖路加国際病院看護部と協働で開発し、併せて本学看護学生に対する HELP in SL を活用した臨地実習前教育プログラムを開発する必要があると考えた。

II. 本事業の目的

本事業の目的は、老年看護学研究室と聖路加国際病院看護部との協働により、入院高齢者へのせん妄予防ケアに関する学部生、看護師を対象とした動画教材、および入院高齢者のせん妄予防ケアプログラム HELP in SL を活用した学部生を対象とした臨地実習前の教育プログラムの開発を目的とする。具体的目標は以下の通りである。

- ① 2015年度に看護部と老年看護学研究室との協働で開発した入院高齢者のためのせん妄予防プログラム HELP in SL に参加した看護学生ボランティアの振り返りシートを分析し、せん妄予防ケアを通して看護学生ボランティアが得た学びと高齢者への関わり方の構成要素を明確化する
- ② 入院高齢者へのせん妄予防ケアについての動画教材を、聖路加国際病院看護部との協働により開発する
- ③ せん妄予防ケアに関する全学生を対象としたアクティブラーニングとしての HELP in SL の具体的提供方法を検討し、主に3年生の臨地実習前に学生が HELP in SL に参加できるようにするための方法を検討する
- ④ ①～③を踏まえ、HELP in SL を活用した臨地実習前教育プログラムを開発する

III. 取り組み方法と内容

1. 学生ボランティアの高齢者への関わりによる学びと関わり方の構成要素の検討

2015年9月から開始している HELP in SL の看護学生ボランティアが記載する振り返りシートを収集し、記載されている内容から、学生のリフレクション状況と気づき、および学びはどのようなことなのかについて、内容分析し、それら高齢者への関わり方として類型化する。

2. 看護師および看護学生が活用できる高齢者のせん妄予防を学習する動画教材の開発

1) 高齢者のせん妄予防とケアについて学習するために、看護師およびHELP in SLに参加する前の看護学生を対象とした、せん妄予防学習動画教材のコンテンツ作成

コンテンツは、「高齢者のせん妄とは」、「せん妄予防のための要素」、「ゲーム的要素やコミュニケーションに基づくアクティビティ」、「リラクゼーションを促すアクティビティ」、「体を動かすアクティビティ」、「回想や思考の利用を促すアクティビティ」、「リアリティオリエンテーションに基づくアクティビティ」等とした。

2) シナリオを作成し、撮影準備を実施

せん妄予防学習動画教材のコンテンツ案を精選し、シナリオを作成する。内容の洗練を行い、動画撮影の準備を行う。

3) 動画の撮影・編集

コンテンツごとに動画撮影を行い、編集を行う。

3. HELP in SLを活用した臨地実習前教育プログラムの開発

具体的目標①の振り返りシートによる記載内容の類型化から、臨地実習前教育としての意義や学生にとってのメリット、課題、臨地実習前教育としての位置づけを明確化する。さらに、看護部と協働で作成する高齢者せん妄予防ケア教材も活用し、HELP in SLが学部3年生の正規のカリキュラムの中で、アクティブラーニングの手法として取り入れた臨地実習前教育プログラムとなり得るかどうか開発の手がかりを検討する。

IV. 事業の実施結果および考察

月別の工程を図1のように計画し、実施した。

1. 学生ボランティアの高齢者への関わりによる学びと関わり方の構成要素の検討

2016年度（2016年4月12日～2017年3月30日）において、HELP in SLに学生ボランティアとして参加した学生は18名であり、参加回数は延べ60回であった。学生ご



	6～7月	8～9月	10月	11月	12月	2017年1月	2月	3月
1. 学生ボランティアの高齢者に関する関わり方の検討	月末に検討分析を行う	内容分析 関わり方の 類型化をする	内容分析 関わり方の 類型化をする	内容分析 関わり方の 類型化をする	内容分析 関わり方の 類型化をする	学びと関わり の構成要素 抽出	学びと関わり の構成要素 体系化	評価
2. 高齢者のせん妄予防を学習する動画教材の開発	コンテンツ 検討	コンテンツ 検討	シナリオ作成 業者選定	コンテンツ ごとに撮影	コンテンツ ごとに編集	業者へ編集 作成依頼		DVD 納品
3. 臨地実習前教育プログラムの開発						実施可能性の 模索		実施可能性の 検討

図1 事業実施 月別工程表

表1 患者ごとの実施回数とアクティビティの種類

患者ID	病棟	性別	実施回数	実施したアクティビティ
1	5E	男	3	体操, マッサージ, 散歩
2	5E	女	1	散歩
3	5E	男	5	散歩, お話
4	5E	女	2	お話
5	5E	男	2	マッサージ, お話
6	5E	女	1	回想法
7	5E	女	2	お話
8	5E	女	6	足浴, 新聞記事を読む, 散歩, 風船バレー
9	5E	女	4	マッサージ, お話, お手玉, 風船バレー
10	5W	女	3	回想法, マッサージ, お話
11	5W	女	4	回想法, 新聞記事を読む, 散歩
12	5W	女	9	マッサージ, 足浴, 回想法
13	5W	女	1	散歩
14	5W	男	5	散歩, 回想法, お話
15	5W	女	4	体操, 足浴, マッサージ, お話
16	5W	女	2	回想法, お手玉, オセロ, 塗り絵
17	5W	女	4	アロママッサージ
18	5W	女	1	散歩

とに参加回数にはばらつきがあり、1回～17回と様々であった。また、HELP in SLを実施した患者ごとの実施回数とアクティビティ内容を表1に示す。実施したアクティビティとして多数占めるものは、マッサージ、散歩、お話であった。学生の振り返りシートの記述内容から、【自分を気遣ってくれていることに気付く】、【おしゃべりを一緒に楽しむことに意味がある】、【患者さんの笑顔や言葉に元気をもらう】、【アクティビティを通して心の距離が近くなる】、【患者さんの新しい一面を発見する】、【もっと喜んでもらうにはどうすればよいか思いをめぐらす】、【更なるコミュニケーションスキルを身につけたい】等、2015年度の結果と同様の内容が示された。

2. 看護師および看護学生が活用できる高齢者のせん妄予防を学習する動画教材の開発

「HELP in SL 実践ガイド」を図2のように動画教材として開発した。看護部 HELP in SL コーディネーターとともに筆者らがシナリオ作成、撮影を実施した。考案した主なコンテンツは以下の通りである。

- 1) HELP とは？：① Hospital Elder Life Program (HELP) とは？、②せん妄とは？、③せん妄の原因、④せん妄予防のために必要なこと、⑤なぜ HELP が必要か？、⑥ HELP を運営するチーム、⑦ボランティアが行うアクティビティ、⑧ HELP の効果
- 2) HELP ボランティアの準備：①高齢者のコミュニケーションにおいて理解しておくこと、②コミュニケーションをとるときに心がけること、③ボランティアの服装
- 3) HELP の方法：①HELP in SL プロトコール、②HELP in SL アセスメントシート、③目的別アクティビティ、④アクティビティ別実施方法、⑤頻度の多いアクティビティの具体的内容（アロマハンド・フットケア、回想法、新聞記事を読む・人生相談、散歩）
- 4) 病室での HELP 活動の注意点：①患者情報を得る、②手洗いをする、③対象者への挨拶、④退室時には

病棟看護師と安全確認し退出する

- 5) HELP 活動の記録・報告：①使用する活動記録用紙、②活動記録の作成、③活動記録の提出と報告

上記のように、5つの内容のタイトルからなる動画教材を作成した。1) HELP とは？については、HELP の概念、高齢者のせん妄について専門的な知識を深めることを目的とした。また HELP を運営するチームとして必要不可欠な多職種連携、さらに HELP の効果についても項目立てを行った。大枠の内容のタイトル2)～5)に関しては、ボランティア学生が戸惑いなく実践できるよう、本学シミュレーションルームや院内で撮影することとした。

動画教材の撮影にあたっては、高齢者役、ボランティア学生役、病棟看護師役、看護部 HELP in SL コーディネーター役と配役を決定し、撮影には本学老年看護学教員全員が臨んだ。撮影日数は2日間かけて行い、編集は業者に委託し、最終的に全編31分40秒の動画教材が完成した。

3. HELP in SL を活用した臨地実習前教育プログラムの開発

1) 臨地実習前教育としての HELP in SL の意義と課題

学生の振り返りシートの記述内容からも、【自分を気遣ってくれていることに気付く】、【おしゃべりを一緒に楽しむことに意味がある】、【患者さんの笑顔や言葉に元気をもらう】、【アクティビティを通して心の距離が近くなる】、【患者さんの新しい一面を発見する】、【もっと喜んでもらうにはどうすればよいか思いをめぐらす】、【更なるコミュニケーションスキルを身につけたい】等と、HELP in SL は看護学生ボランティアにとって、肯定的な体験となっていた。また、通常の臨地実習からは得られないような「主体的にできたというやりがい」を感じており、高齢者とは30分～1時間という短時間の関わりにもかかわらず、高齢入院患者を一人の「人」として知る、理解するという基本的な術を習得しやすい機会になっていることがうかがえた。ボランティア学生のリピーターも徐々に増えてきており、定着してきていることから、HELP in SL は学生にとって意義のあることとして評価できると考えられる。

今後の課題として、現在 HELP in SL は看護学生のボランティア活動に位置づけているため、演習や実習として活用していく場合には HELP in SL の位置づけを正式なカリキュラムとして学内で確立していかなければならない。したがって、看護教育として HELP in SL がどのようにアクティブラーニングのひとつとして活用できるのか、今後も検討し、大学と看護部との教育方法の融合化のための組織間連携の構築が必要である。



図2 HELP in SL 実践ガイド：動画教材

2) 高齢者せん妄予防ケア教材としての「HELP in SL 実践ガイド」活用の展望

完成した動画教材を HELP in SL にボランティアとして新規登録した学生1名に視聴してもらった上で、評価を得た。それによれば、「HELP の必要性和アクティビティの根拠づけや概念が理解でき、アクティビティや HELP in SL の実施手順もわかりやすい」との評価だった。しかしながら、すべてを視聴すると31分40秒あるため、ボランティア開始前のオリエンテーション時に視聴するには長いという反省がある。効果的な活用方法を今後検討することが必要であると考えられ、それには視聴する対象者の特性によって、視聴コンテンツを選択する方法をとることができるようにすることが必要である。さらに、HELP に関する概念の説明は、せん妄予防に関する知識の習得のために、老年看護学の授業において活用するのも一案ではないかと考えられ、2017年度から老年看護学Ⅱにおいて利用することを検討している。また、せん妄予防に関する知識の習得を目的とするのであれば、それは看護学生ボランティアだけではなく、病棟看護師においても有効な学習教材となり得ると考えられる。

3) 臨地実習前教育プログラム(動画教材の活用と HELP in SL 実践) がもたらすもの

2015年度から筆者らは、老年看護学における教育上の課題、そして臨床側における実践上の課題の両者を解決していくために、これまでの学部や大学院における老年看護学教育の内容を臨床実践に組み込み、さらに聖路加国際病院の看護部側の課題を解決できるよう両者を融合化する教育方法を考えてきた。

本来、HELP は、入院高齢患者のために一日3回20分以上提供される。それにより、高齢患者の入院生活が質を向上させ、せん妄予防に効果があるといわれている。しかし、本学の HELP in SL は、入院高齢者への良い影響のみならず、看護学生には高齢者理解や、コミュニケーション技術の習得、せん妄予防に関する知識と実践方法の習得につながっていた。また、病棟看護師にとっても看護学生の活動や実施後の報告・記録(振り返りシート)を通して、看護学生の学びを共有し刺激を受け、さらに看護学生の患者への関りによって、患者の入院生活が向上している様子を目の当たりにし、病棟スタッフにおいても高齢者ケアの質の向上を実感するなど良い影響を与えていることが示された。

図3に、HELP in SL を活用した臨地実習前教育プログラムの位置づけと、HELP in SL を実施したことによってもたらされる内容を構造化した。これらのことから、HELP in SL の活動は、入院高齢患者に対してのみ有益なものではなく、看護学生ボランティアや病棟スタッフに関しても教育的視点とケアの質の向上において有益なものであることが理解できる。よって、HELP



図3 HELP in SL によりもたらされる構造図

in SL がアクティブラーニングによる実践的老年看護学教育を実現しており、今後も HELP in SL を通して教育改革を推進し続けていくことは、新たな教育方法を生み出す機会ともなり、実践的教育の効果が得られると考えられる。

V. まとめ

本事業では、老年看護学研究室と聖路加国際病院看護部との協働により、入院高齢者へのせん妄予防ケアである HELP in SL の動画教材の作成、および HELP in SL を活用した、学部生を対象とした臨地実習前の教育プログラムの開発を行った。

その結果、HELP in SL を通して新たな教育方法を展開することができ、老年看護学の教育を向上することができたと考えられた。今後も老年看護学の教育の質的向上を目指し、本教育による成果を評価していき、さらなる教育方法の改善をはかっていく必要がある。

謝辞

本事業は、2016年度聖路加国際大学教育改革推進事業の助成を受け実施した。ご協力いただいた聖路加国際病院5階西病棟、5階東病棟の皆様、ならびに本学看護学生、ボランティアの皆様に関心より感謝申し上げます。

引用文献

- 1) Inouye, S. K., et al. The Hospital Elder Life Program : a model of care to prevent cognitive and functional decline in older hospitalized patients. Hospital Elder Life Program. J Am Geriatr Soc. 2000;48:1697-1706.
- 2) Inouye, S.K., et al. A multicomponent intervention to prevent delirium in hospitalized older patients. N Engl J Med. 1999 ; 340(9) : 669-676.
- 3) Bradley, E.H. et al. Patterns of diffusion of evidence-based clinical programmes: a case study of the hospital elder life program. Qual Saf Health Care. 2006 ; 15 : 334-338.
- 4) Caplan, G.A., et al. Recruitment of volunteers to improve vitality in the elderly: the REVIVE study. Intern Med J. 2007 ; 37 : 95-100.
- 5) Rubin, F.H., et al. Sustainability and scalability of the hospital elder life program (HELP) at a community hospital. J Am Geriatr Soc. 2011 ; 59(2) : 359-365.
- 6) 亀井智子, ほか. 高齢入院患者のためのせん妄等予防・入院支援プログラム Hospital Elder Life Program in St. Luke's (HELP in SL) の導入と初期評価—聖路加国際大学看護学部老年看護学・聖路加国際病院・看護学生ボランティアの協働から—. 聖路加国際大学紀要. 2016 ; 2 : 94-99.
- 7) 亀井智子, ほか. 入院高齢者のせん妄予防・入院支援プログラム（HELP in SL）の導入と初期評価—第1報：看護部と看護学部の協働体制の構築と成果—. 日本老年看護学会第21回学術集会抄録集. 2016 ; 100.
- 8) 川上千春, ほか. 入院高齢者のせん妄予防・入院支援プログラム（HELP in SL）の導入と初期評価—第2報：看護学生ボランティアの振り返りシートの分析—. 日本老年看護学会第21回学術集会抄録集. 2016;100.